

祈りの中で知られる
キリストの復活の人々 #4
ポー・スターン・ブレイディ
2024年・6月・9日

“こういうわけで、わたしも、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを耳にし、わたしの祈のたびごとにあなたがたを覚えて、絶えずあなたがたのために感謝している。どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていただいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかにかに栄光に富んだものであるか、また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。神はその力をキリストのうちに働かせて、彼を死人の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右に座せしめ、彼を、すべての支配、権威、権力、権勢の上におき、また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名の上におかれたのである。そして、万物をキリストの足の下に従わせ、彼を万物の上にかしらとして教会に与えられた。この教会はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならない。”

エペソ人への手紙 1:15-23 口語訳

私たちは神の祝福と栄光の豊かさに動かされ、現在、力強く、預言的な方法でお互いのために祈ります。祈りは復活の言葉です(物語:言葉)

この聖句では、私たちの賜物と、それが与えられた力は、私たちの人生の中で一つになります = 復活です。これは、詩篇 27 にあるように、「生ける者の地」です。私たちに向けた神の賜物と、私たちのための神の力... 私たち人間の人生の中で一緒に働き、私たちを通して神の善い目的を成し遂げます。これが復活です - イエスの死に対する勝利の向こう側に来た賞です。これは、私たちが天国に移った後だけのものではありません... これは今のためのものです。私たちが住む王国の国、私たちが歩く土地、私たちが住む体、私たちが影響を与える人々、私たちが行う仕事、私たちの愛し方... これが復活であり、それは祈りから始まります。そして、祈りは私たちが思っているほど神秘的ではなく、また、思われるほど難しくもありません。

パウロはこの言語に3つの動詞を与えている:

祝福する
感謝する
祈る

祈りは対話です。何度も繰り返されます。祈りは私たちの言語、心、思考に織り込まれています。車を運転しているときに、心配している友人のことが頭に浮かぶとき、私たちは祈ります。

混雑した通路で買い物カートを押しているとき、私たちは祈ります。歯医者で待っているとき、朝に聖書を開くとき、ニュースで悲劇的な話を見て、希望と助けと癒しを求めて神に願いを捧げるとき、私たちは祈ります。私たちはベッドに横になって未来を思い巡らしながら祈ります。赤ちゃんを揺り動かして寝かしつけながら「イエスは私を愛して」を歌うとき、または果てしない太平洋を眺めて神の御業に深い畏敬の念を感じるとき、私たちは祈ります。私たちはしばしば神を巻き込んだ内なる対話を主催します。助けて、ありがとう、すごい。ユージン・ピーターソンは言いました：

「私たちがすることすべてが祈りだと言っているのではなく、私たちがすること、言うこと、考えることすべてが祈りになり得ると言っているのです。パウロの場合もそうだったようです。また、私たちの多くは、自分が祈っていることを意識するよりもずっと多く祈っているとも言っています。私たちは、通常の祈りの場にはいないときに祈ります。通常の祈りの言葉を使っていないときに祈ります。「絶えず祈り、弱気にならないように」(ルカ18:1)という聖句は、気づかれず、注目もされずに、頻繁に起こっていると言っているのです。」 ユージン・ピーターソン

それでは、このテキストに概説されているように、復活の言葉が私たちの生活の中でどのように見えるかを少し分析してみましょう。

1 戸口

2 リクエスト

神の御前に通じる扉: 感謝: すべては感謝から始まります。パウロは言います: 私はあなた方への感謝を決してやめません。

感謝をもって主の門に入り、賛美をもって主の庭に入り、主に感謝し、その名を祝福せよ。詩篇 100:4

(別のスライド)

二つのリクエスト:

1. 神をよりよく知るための知恵と啓示
2. 悟りを開いた心

知恵と啓示はとてもクールなもののように思えます。啓示 = 暴露。宝くじの番号? ケンタッキーダービーは誰が勝つでしょうか? パウロは、この知恵と啓示の精神の最善の活用法について具体的に述べています。それは、神をもっと知ることです。とてもシンプルですが、とても強力です。祈りと言えば、私は過去__日間、エペソ人への手紙のこの一節を皆さんのために祈ってきました。神がB4に、イエスをもっと知るための知恵と啓示を与えてくださいますように。私たちが毎日少しずつ神を知っていたらどうでしょう? 聖書を読むたびに? 神が私たちの世界で何かをしたという話を聞いたたびに? 「私たちの心の目」にある神のイメージがどんどん鮮明になっていったとしたらどうでしょう? 私たちの中で何が変わるでしょう? 私たちを通して何が

起こるでしょうか？神に従うにつれて、神に対する私たちの見方が向上し続けたとしたらどうでしょう？多くの熱心な人々が、非常にぼやけた、または誤って描かれた神の名の下に損害を与えてきました。この少しずつの向上は弟子訓練と呼ばれます。そして、私がこれについて主張できる最大の論拠は、もし人々が本当に神をありのままに見ることができたなら...神を愛することを選ばない人がいるだろうか、ということです。

啓発された心:

啓発された心はパウロの比喻です。彼以前のユダヤ文学にも世俗文学にも出てきません。パウロは聖霊を、私たちの心や人間関係、あるいは世界の暗い隅を照らす超自然的な懐中電灯のようなものだと見ています。何を照らす必要があるのでしょうか？

悟りを開いた心は:

- A. あなたが呼ばれる希望。
- B. 神の栄光ある遺産の富
- C. 信じる私たちにとって、彼の比類のない偉大な力。

希望:

富:

力:

比類のない偉大な力:

- イエスを死から甦らせた
- 彼を右の座に着かせた
- すべてを彼の足元に置く
- 彼を教会の長とした

それは大きな力です。具体的には、安全で美しく善良な霊的世界秩序を確立した力です。イエスは復活し、しっかりと王座につき、すべてのもの、特に教会を管理しています。それは、私たちが彼の善良さの中でどれほど安全であるか、彼のリーダーシップをどれほど頼りにできるかをはっきりと示しています。人生は依然として厳しく、短く、しばしば不公平ですが、彼は善であり、すべてのもの、特に私たちの再生に尽力しています。再生とは何でしょうか？希望、癒し、自由、繁栄です。これが私たちがイエスに見る人生であり、イエスを通して私たちが受け取る人生です。したがって、これは私たちの祈りの生活が築かれる足場であるべきです。私たちのための祈り、教会のための祈り、そして私たちの壁の外の世界のための祈り。希望、癒し、自由、繁栄。すべてのものの再生です。

返事/聖体拝領

祝祷

そのほか ポーのノート:

論文: 私たちは神の祝福と神の栄光の豊かさに心を動かされ、現在、力強く、預言的な方法で互いのために祈ります。

- エペソ人への手紙はパウロの祈りで満ち溢れています
- 祈りは主に神を知ること、そして神に知られることです。パウロは1:17で読者のために祈っています(JMCの「道を実践する」の主要テーマ)
- パウロは啓示、希望、相続、そして力に焦点を当てています
- 「祈りは私たちの感覚では到達できない現実に対する感受性を養います。」— EP、復活の実践
- 神は私たちの息のように近いですが、ほとんどの人は神を見逃しています(道中のクレオパ...). もっと「印象的な」ものを求めているからです。(イザヤ53:2 = 印象的ではありません!)

緊張ポイント: 祈りは、啓蒙主義の合理主義と、神が私たちに勧めている方法とは異なる方法で神を知ろうとするポストモダニズムのシニシズムの両方に挑戦します。これらは、B4の人々に対する大きな、そして検証されていない影響です。

復活の言葉は祈りです。

それは私たちの本当の姿と一致していますが、神のいないこの世界ではそれを実践する機会はありません。